



みんなで考えよう！「事務補助削減」問題
事務職員だけの問題ではありません！学校運営に関わることです！



12月3日、17名が参加し「事務補助削減」情報交換会が教育会館で行われました。「事務補助削減」問題についてはJTU ほっきゅう no. 5でもお知らせしましたが、今年度から児童生徒数300人以下の学校26校において、事務補助員が未配置になっています。今回の学習会では「該当校」の事務職員の話聞き、その問題点を参加者で話し合いました。参加者の感想です。

「知ろうとしなければわからない」まさにそうでした。事務補助削減反対と声をあげながらも「現実の声」を聞く機会が今までなかったので（聞こうとしなかったのでは私・・・）とても貴重な体験でした。又、次の学習会をしましょう。提言シートにぜひ書きます。みんなで声をあげましょう。（教員）

一人配置になった学校の実態を生の声で聞くことができたので、どれだけ大変なのかということが分かって良かった。



大積小は、120人程度の児童数です。2年目の会計年度任用職員の事務補助の方がいます。土曜授業での持久走大会の受付、見守り等々、小さな学校でも本来の仕事以上のことにかり出され、それで成り立っている現状です。今日は、色々な方から具体的な現状や思いが聞かれ、勉強になりました。事務研の姿もわかりました。今日の話をもとに近くの事務の方に声をかけ続けたいと思いました。（教員）



事務補助員のいない学校の実態を聞くことができておどろきました。事務処理、会計の重要性を再認識しました。

事務の仕事は、人数（生徒数）では計れない。このことを委員会に理解してほしい。

現場の切実な意見が聞けてとても参考になりました。現職中は教員で事務職員の仕事についてほとんど関心がなかったことを今さらのように後悔しています。「教員の働き方改革」が叫ばれ、それも何の解決もされていませんが、そのうらで事務職員へのしわ寄せが進んでいる現状。教職員全体の問題として取り組む重要さをひしひしと感じました。若い事務職員の方が参加されていることに元気ももらいました。ありがとうございました。

実際に一人で事務をされている学校は本当に無理をして責任感の強さで行われているんだと思います。片手間でできる業務量ではありません。事務補助の重要性を改めて考えてほしいです。

事務補助削減問題は、事務職員のみ問題ではありません。一人の経理担当の職員が減らされることにより、他の教職員（特に学年会計、学級会計など）の負担が増え、**学校運営にも影響**を与えてまいります。北九州市教組は事務職員部と共に市教委や人事委員会と交渉を行ってきました。「事務職員の業務改善は考えるが、全校配置は考えていない」というのが**市教委の回答**です。事務補助未配置校の現状を**全ての教職員が知る**ことが大事なことです。**職種を超えて全教職員で考え、色々な場所で声を挙げていきましょう。**

